



## 普代村独自ブルーカーボン・オフセット制度 プレスリリース

令和 8 年 4 月 1 日

普代村総務課政策推進室

### ～ 海洋資源を活用した普代村独自のブルーカーボン・オフセット制度の開始 ～

本村養殖コンブ及び養殖ワカメのブルーカーボンを取引可能な権利(クレジット)として認証し、地球温暖化対策の取り組み、環境保全や環境啓発に取り組むとともに地球温暖化対策と村民にとって親しみやすい海づくりを同時に推進します

本村では、地球温暖化対策の取り組みの一環として、普代村独自のブルーカーボン・オフセット制度運営を新たに構築しました。

このたび、新たな吸収源対策の取り組みとして普代村漁業協同組合様の賛同のもと養殖ワカメ及び養殖コンブについて審査を実施し、クレジットとしての販売を開始します。

#### 【普代村村長からのメッセージ】

近年は、地球規模で様々な異常気象による災害等が頻発しており、昨今の異常な夏の暑さ、さらには、海洋環境の変化における水産資源への影響など、地球環境への変化が生じ水産業への課題等生じているところでございます。

このことから、岩手県で一番小さな村「普代村」の地球温暖化対策に向けた取り組みとして2050年を目途に二酸化炭素排出量実質ゼロを目指すとともに、本村の基幹産業でもある水産業の「養殖ワカメ」及び「養殖コンブ」の吸収源分野における地球温暖化対策に資する取り組みのほか、本村独自のブルーカーボン・オフセット制度の活動が村民のみならず多くの人々、団体、企業の意識啓発及び行動喚起の後押しともなることを期待しております。

普代村 村長 柗屋 伸夫

#### 【経緯】

平成31年2月に横浜市と「再生可能エネルギーの活用を通じた連携協定」を締結し、令和元年12月に岩手県北岩手の9市町村による「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ宣言」を表明しました。本村において、令和2年2月に横浜市独自の「ブルーカーボン・オフセット制度」による養殖ワカメ(水揚高:509.4t)、養殖コンブ(水揚高:1255.2t)の生産過程における二酸化炭素吸収量のクレジット化の認定を受け、令和4年12月をもってクレジットの完売に至りました。クレジットの収益については、今後の水産業の担い手育成へ活用して参りました。

また、令和2年7月にジャパンプルーエコノミー技術研究組合(JBE)と国土交通省が連携し運営するブルーカーボン・オフセット制度の試験運用が開始されたこともあり、本制度は終了しました。

本村の制度運営にあたり、気候変動緩和策を目的とし水揚げせずに海域に海藻を残し維持する活動である既存のブルーカーボン・オフセット制度は、本村のクレジットが認証の対象とならないことから普代村独自のブルーカーボン・オフセット制度の構築を行いました。

裏面あり

【ブルーカーボンの定量化手法について】

「海草・海藻藻場の CO<sub>2</sub>貯留量算定ガイドブック」等の考え方を基本として養殖コンブ及び養殖ワカメに適用する係数を調査の上で決定しています。

【クレジットの購入について】

クレジットの購入を希望される方は、普代村ホームページを確認のうえ普代村ブルーカーボン・クレジット購入及びカーボン・オフセット認証申込書(第1号様式)をご提出ください。

【ブルーカーボンとは？】

森林が吸収・固定する CO<sub>2</sub>をグリーンカーボンといいます。同様に、海藻養殖の育成により海洋生態系が吸収・固定する二酸化炭素をブルーカーボンといいます。

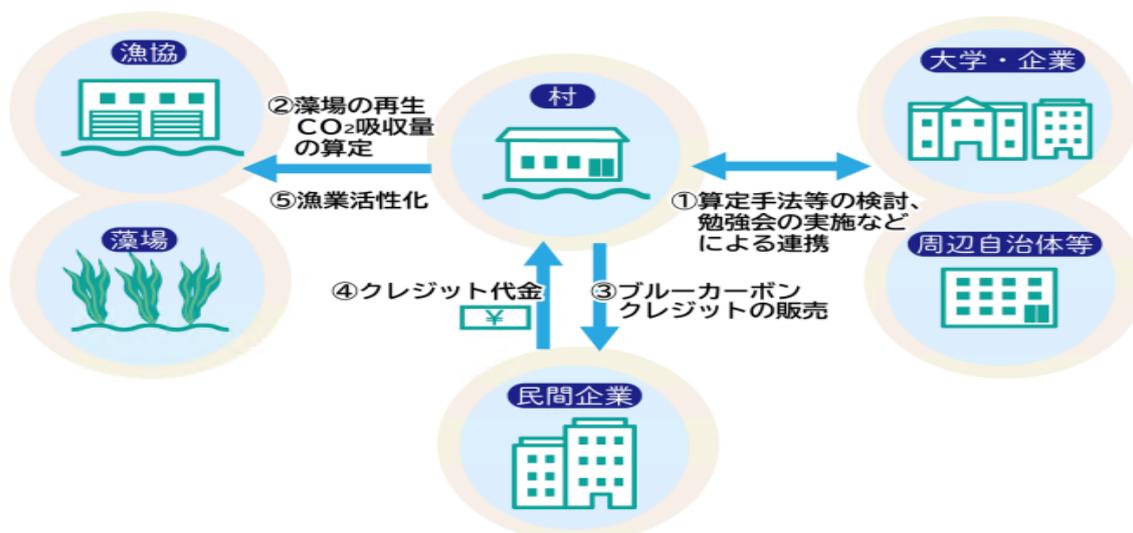


【カーボン・オフセット制度とは？】

CO<sub>2</sub>排出量削減の手法のひとつとして、他者の CO<sub>2</sub>排出量削減や CO<sub>2</sub>吸収・固定の効果を買い取り、自らの CO<sub>2</sub>排出量と相殺するカーボン・オフセットがあります。カーボン・オフセットには、クレジット申請者には資金面の支援に繋がります、オフセット事業者には CSR 活動として広報を行うことで企業価値の向上に繋がります。

ブルーカーボンとグリーンカーボン

【普代村ブルーカーボン・オフセット制度】



お問合せ先

普代村 総務課 政策推進室 TEL0194-35-2114